

「総合的な学習」における健康教育 —健康に関するテーマについての一般教師の意識—

戸部 秀之*

キーワード：総合的な学習、健康教育の内容、教師の意識

I はじめに

平成10年から11年にかけて学習指導要領の改訂がなされ、告示された。新学習指導要領の特徴的な点は「総合的な学習の時間」の創設である。創設の趣旨としては、特色のある学校づくりのための時間として、また、「生きる力」を育むために教科の枠を超えた横断的・総合的な学習を実施するための時間として位置づけられている。特に、地域や学校、児童（生徒）の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童（生徒）の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を、各学校が独自に行っていくという点はこれまでに見られなかった特徴であり、この時間のねらいと授業時数は学習指導要領に示されているが、学習内容は規定されていない。

さて、新学習指導要領に、総合的な学習の時間で扱う課題として「国際理解、情報、環境、福祉」と並んで「健康」が例示されているように、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎的な能力を育むことは重要なことであり、健康は、総合的な学習の中心テーマの一つになりうるものである。わが国の学校健康教育をさらに充実させていくためには、総合的な学習のなかに健康教育を確実に位置づけていく必要があるといえる。しかしながら、総合的な学習の教育内容がすべて各学校に任されることは、健康教育を充

実させていく可能性につながる反面、各学校の教師集団が児童生徒の健康問題に対しどの程度重要性を認識しているかによって、内容の取り扱いが大きく規定されることになる。本研究では、総合的な学習で健康教育を展開していくための条件として、健康に関わる内容についてどの程度必要性を感じているか、小中学校の教師の意識を調査した。

II 対象と方法

調査は、平成11年4月から6月の間に小中学校の教師を対象に調査票を用いて行った。対象とした学校は、近畿圏の3府県を都市部（地方都市を含む）と郡部に分け、それぞれに含まれる学校の母数に合わせて都市部と郡部から無作為に計80校を選び、調査の依頼とともに学校長宛てに調査紙を郵送した。学校長には、「総合的な学習」の検討に当たって指導的な役割を果たす教師を含め、数名の教師を選んで回答してもらうよう依頼文を添付した。調査は無記名式で行い、調査用紙の回収は無記名式の郵送とした。計34校（回収率42.5%）、小学校教師56名、中学校教師78名、計134名の教師から回答を得た。1校からの平均回収数は4.0名である。

調査項目は、大別して次の3つの項目から構成した。すなわち、「総合的な学習に対する現時点の検討状況」、「児童生徒の現状から必要と思われる学習内容」、「予想される問題点」である。こ

*埼玉大学教育学部体育医・科学講座

ここでは、主に「児童生徒の現状から必要と思われる学習内容」について検討した。「必要と思われる学習内容」の質問では、新学習指導要領に横断的・総合的課題として例示してある「環境、国際理解、情報、福祉・健康」の視点や、全国にさきがけて総合的学習の研究を行ってきた研究先進校の実践を参考に、健康教育以外の項目を多く含めてある。それによって、教師が健康教育に関連する内容と、それ以外の内容についての重要性を相対的にどのように位置付けているかについての情報を得ようとした。

Ⅲ 結果と考察

計134名の有効回答のうち教員経験年数が10年以下の者が16.4%、11から20年が39.6%、21から30年が37.3%、31年以上が6.7%だった。勤務校のある地域を都市部（地方都市を含む）と郡部に分けると、都市部の学校に勤務するものが47.7%、郡部が52.3%だった。調査の時での「総合的な学習の時間」に向けての準備状況を尋ねたところ、「ほとんど進めていない」が小学校で32.1%、中学校で55.1%、「検討をはじめている」が小学校で60.7%、中学校で37.2%、「教育課程など、ある程度方向性が見えてきている」が小学校で7.1%、中学校で6.4%であり、中学校の1名が「すでに実験的に取り組んでいる」と回答していた。新学習指導要領の全面実施を目前とした平成13年現在では、おそらくほとんどの学校でかなり明確な方向性が見えてきているはずである。

本調査では、まだ実践例があまり紹介されてなく、多くの学校でまだ方向性が見えていない平成11年現在の教師の意識を尋ねているが、それには次のような意義がある。つまり、新学習指導要領告示後、平成13年現在に至るまで、研究先進校の実践例などが多くの研修で紹介され、多くの書物が出版された。その中には独自の教育課程を詳細に紹介しているものもある¹⁾²⁾³⁾。学校現場ではそれらの実践例を参考にしてカリキュラムを工夫

していることが多いが、それらの影響を強く受け、総合的な学習の方向性に、全国的に一定の方向性ができている可能性は否めない。本調査はそのような影響の少ない時期に実施されているため、健康問題に対する教師の潜在的な意識が比較的率直に反映されていると考えられる。

表1に、新学習指導要領に例示されている課題に研究先進校で取り上げられているテーマを加え、それぞれについて総合的な学習で取り上げる重要性について質問した結果を示す。それぞれの内容について「特に重要」、「比較的重要」、「どちらともいえない」、「あまり重要性を感じない」、「重要性を感じない」の5段階で回答を求めた。いずれの項目についても「特に重要」、「比較的重要」、「どちらともいえない」の3段階でほぼ9割以上の回答率を占めていた。学校段階別に見ると、小学校では「環境に関する教育」についての意識が最も高く、33.9%が「特に必要」と答えていた。「比較的必要」も合わせると91.1%に達していた。調査をした時点で、ダイオキシン問題や地球温暖化、環境ホルモンなどの環境問題が国内、国外の問題としてマスコミに大きく取り上げられていたことも、高率の要因かもしれない。次いで、「郷土を題材にした教育」、「福祉に関する教育」などが続いていた。一方、「健康に関する教育」について「特に必要」と回答したものは12.5%、「比較的必要」を合わせると60.7%であり、ここに挙げた内容の中では低率であった。中学校では、「環境」、「福祉」、「ボランティア」に関する教育を必要と考えるものの率が高かった。それらに次いで「健康に関する教育」が位置しており、「特に必要」と回答したものは29.9%、「比較的必要」を合わせると74.0%であった。小学校教師と中学校教師間で「健康に関する教育」についての回答に差があるかどうかについて、フィッシャーの正確検定（Fisher exact test）によって検討したところ、 $p < 0.001$ 水準で有意な差が見られ、中学校の方が「健康に関する教育」を重要視するものが多い傾向が伺えた。また中学校では「あまり重要性を感じない」も小学校より多かったが（7名）、う

ち6名がその理由として「他の教科で十分学習されている」を挙げていた。教員経験年数と「健康に関する教育」についての回答には統計的に有意な関連はなかった。

表2、表3は、より具体的な学習内容項目を挙げ、総合的な学習で取り上げる必要性を質問した結果である。(表中の項目名は、調査票の表現を簡略化して示してある。実際に調査票で用いた表現は資料1を参照。)まず小学校教師では、「特に必要」と回答したもののパーセンテージを見ると、「自然の大切さ」をはじめ環境問題にかかわる項目が上位を占めており、「障害者・高齢者の生活の理解」など福祉と関連する項目、「自分自身を理解し高める」、「他文化や人間相互の理解や尊重」などが続いていた。健康・安全に関連する項目に「特に必要」と回答したもののパーセンテージは低く、比較的上位に位置した「心身の成長と性」や「心の健康」で14.3%、健康教育の重要なテーマである「生活習慣病の予防」、「成長期の健康問題」、「健康的な食事と食の安全」、「喫煙、薬物乱用の防止」などは10%を下回っていた。「特に必要」と「わりに必要」を合わせたパーセンテージで示すと、環境や福祉関連の項目が上位にくる傾向は同様であったが、健康に関する項目では、「心身の成長と性」が85.7%と高率であり、「体の不思議さ」、「健康情報の活用」、「健康的な生活の計画と実践」、「心の健康」が60%を越えていた。「生活習慣病の予防」や「喫煙、薬物乱用の防止」などは約3割と低率であった。中学校教師においては、「特に必要」と回答したものが30%を越えた項目は9項目と多く、福祉や環境に関する項目に加え、「他文化や人間相互の理解や尊重」、「情報の批判的判断」、そして「喫煙、薬物乱用の防止」が含まれていた。健康・安全に関する項目は、「心の健康」、「健康情報の活用」、「犯罪などに巻き込まれない」などが20%を越え、他の項目もほとんどが10%を越えていた。小学校児童に比べ中学生では喫煙行動の開始のような差し迫った健康問題があり、非行や登校拒否も日常的な問題となってくる。さらには犯罪や

自殺のような大きな問題も発生しかねない。このようなことから、中学校教師の方が生徒の健康問題により多くの関心を向けていると想像できる。しかしながら、健康以外の項目との相対的な位置づけでは、相対的に定率であった。

「総合的な学習」の研究校等の実践例として、「環境」や「福祉」、「国際理解」などは多くの取り組みが報告されているが、「健康」を意識した取り組みは少ないのが現状である。その背景には、特に小学校教師の結果に見られたように、教師が健康に関する内容をあまり必要と考えていないという現状や、また、中学校教師の結果からは、健康に関する教育の必要性はある程度は感じつつ、より重要となるテーマが優先されるという現状があるのではないかと推測された。しかしながら、健康教育を広い視点から捉えると、環境や福祉、国際理解などは、いずれも多様な視点からの健康教育であるということが出来る。例えば、「環境」は地球環境や地域環境の健康という視点、「福祉」は健康的な地域社会という視点、「国際理解」は国際社会の健康という視点を多く含んでいる。「情報」に関しても、溢れる情報の中から正しい情報を見極め、選択できる能力は健康にとってもきわめて重要であり、これはWHOが示しているライフスキルの一つである批判的思考能力と関連が深い⁴⁾。このように捉えると、むしろ、健康の視点が総合的な学習で扱ってきたさまざまな内容を有機的に結び付けていく核になりうるテーマであるといえる。ただし、そのためには、「健康」を単に病気の予防や傷害の防止といった視点からのみ捉えるのではなく、きわめて広い意味で「健康」を捉えていくことが不可欠であろう。

引用文献

- 1) 上越市立大手町小学校：新しい教育課程に虹色の夢、日本教育新聞社、1998
- 2) 滋賀大学教育学部附属中学校：生きる力を育てる総合学習の実践、明治図書、1997
- 3) 寺本潔、豊田市立元城小学校：町おこし総合学

習の構想、明治図書、1997

- 4) WHO編：WHO ライフスキル教育プログラム、
監訳：川畑徹朗他、大修館、pp.12-16

(2001年9月28日提出)

(2001年10月11日受理)

表1 総合的な学習で取り上げる重要性に関する教師の意識

小学校			n = 56		
順位	特に重要	%	順位	特に重要 + 比較的重要	%
1位	環境に関する教育	33.9	1位	環境に関する教育	91.1
2位	郷土を題材にした教育	28.6	2位	郷土を題材にした教育	85.7
3位	コミュニケーションに関する教育	26.8	3位	福祉に関する教育	75.0
4位	福祉に関する教育	25.0	4位	ボランティアに関する教育	67.9
5位	情報に関する教育	17.9	5位	国際理解に関する教育	62.5
6位	ボランティアに関する教育	16.1	〃	情報に関する教育	62.5
7位	健康に関する教育	12.5	7位	コミュニケーションに関する教育	60.7
8位	国際理解に関する教育	10.7	〃	健康に関する教育	60.7

中学校			n = 78		
順位	特に重要	%	順位	特に重要 + 比較的重要	%
1位	福祉に関する教育	41.0	1位	環境に関する教育	88.3
2位	環境に関する教育	39.0	2位	福祉に関する教育	85.9
3位	コミュニケーションに関する教育	37.2	3位	ボランティアに関する教育	84.4
4位	ボランティアに関する教育	32.5	4位	健康に関する教育	74.0
5位	健康に関する教育	29.9	〃	郷土を題材にした教育	74.0
6位	郷土を題材にした教育	26.0	6位	コミュニケーションに関する教育	73.1
7位	国際理解に関する教育	24.7	7位	国際理解に関する教育	70.1
8位	情報に関する教育	15.6	8位	情報に関する教育	67.5

注) 数値は、それぞれの項目について、「特に重要」「比較的重要」「どちらともいえない」「あまり重要性を感じない」「重要性を感じない」の中から選択したもののパーセンテージである。

表2 総合的な学習で取り上げる必要性に関する小学校教師の意識（具体的項目について）

特に必要 (%)		特に + わりに必要 (%)	
1) 自然の大切さ	40.0	1) 自然の大切さ	87.3
2) 身近な環境問題	39.3	29) 心身の成長と性	85.7
5) リサイクル	35.7	2) 身近な環境問題	83.9
3) 地球規模の環境問題	32.1	15) 障害者・高齢者とのふれあい	82.1
4) 消費社会と環境汚染	28.6	13) 障害者・高齢者の生活の理解	80.4
6) 足もとからの環境保全の方法	23.2	5) リサイクル	76.8
34) 自分自身を理解し高める	23.2	3) 地球規模の環境問題	73.2
13) 障害者・高齢者の生活の理解	19.6	17) 体の不思議さ	67.9
15) 障害者・高齢者とのふれあい	19.6	9) 海外の飢餓貧困	66.1
7) 他文化や人間相互の理解や尊重	17.9	8) 世界平和	64.3
14) 障害者・高齢者の援助・介助	16.1	12) 健康情報の活用	64.3
9) 海外の飢餓貧困	14.3	14) 障害者・高齢者の援助・介助	64.3
29) 心身の成長と性	14.3	23) 健康的な生活の計画と実践	60.7
30) 心の健康	14.3	30) 心の健康	60.7
8) 世界平和	12.5	34) 自分自身を理解し高める	60.7
10) 情報の集めかた・発信	12.5	6) 足もとからの環境保全の方法	58.9
12) 健康情報の活用	12.5	26) 新しい外遊びやスポーツの考案	58.9
17) 体の不思議さ	12.5	4) 消費社会と環境汚染	57.1
23) 健康的な生活の計画と実践	12.5	7) 他文化や人間相互の理解や尊重	55.4
25) 犯罪などに巻き込まれない	12.5	27) 健康的な食事と食の安全	55.4
26) 新しい外遊びやスポーツの考案	12.5	10) 情報の集めかた・発信	51.8
32) 災害時の対応	12.5	21) 事故予防	51.8
11) 情報の批判的判断	10.7	25) 犯罪などに巻き込まれない	42.9
21) 事故予防	10.7	11) 情報の批判的判断	41.1
18) 生活習慣病の予防	8.9	32) 災害時の対応	39.3
27) 健康的な食事と食の安全	8.9	20) 成長期の健康問題	37.5
31) 緊急時の対処（事故、病人）	7.1	31) 緊急時の対処（事故、病人）	37.5
19) 感染症の予防	5.4	22) 事故・病気の影響	33.9
16) 体や心の老化	3.6	18) 生活習慣病の予防	32.1
20) 成長期の健康問題	3.6	19) 感染症の予防	32.1
22) 事故・病気の影響	3.6	33) 保健医療サービスの利用	32.1
24) 喫煙・薬物乱用の防止	3.6	24) 喫煙・薬物乱用の防止	30.4
28) 薬の正しい使い方	0.0	16) 体や心の老化	19.6
33) 保健医療サービスの利用	0.0	28) 薬の正しい使い方	17.9

注) 表中の番号は資料1に対応。

n=56

表3 総合的な学習で取り上げる必要性に関する中学校教師の意識（具体的項目について）

特に必要 (%)		特に＋わりに必要 (%)	
2) 身近な環境問題	46.2	15) 障害者・高齢者とのふれあい	91.0
15) 障害者・高齢者とのふれあい	38.5	2) 身近な環境問題	89.7
14) 障害者・高齢者の援助・介助	37.2	1) 自然の大切さ	87.2
13) 障害者・高齢者の生活の理解	35.9	14) 障害者・高齢者の援助・介助	84.6
24) 喫煙・薬物乱用の防止	35.9	3) 地球規模の環境問題	83.3
1) 自然の大切さ	34.6	5) リサイクル	82.1
7) 他文化や人間相互の理解や尊重	33.3	13) 障害者・高齢者の生活の理解	80.8
11) 情報の批判的判断	33.3	4) 消費社会と環境汚染	75.6
5) リサイクル	32.1	24) 喫煙・薬物乱用の防止	75.6
3) 地球規模の環境問題	28.2	9) 海外の飢餓貧困	73.1
8) 世界平和	28.2	29) 心身の成長と性	69.2
34) 自分自身を理解し高める	26.9	34) 自分自身を理解し高める	69.2
30) 心の健康	25.6	8) 世界平和	69.2
4) 消費社会と環境汚染	23.1	7) 他文化や人間相互の理解や尊重	66.7
12) 健康情報の活用	22.1	11) 情報の批判的判断	66.7
9) 海外の飢餓貧困	21.8	10) 情報の集めかた・発信	64.1
25) 犯罪などに巻き込まれない	21.8	12) 健康情報の活用	62.3
29) 心身の成長と性	21.8	30) 心の健康	61.5
32) 災害時の対応	20.5	6) 足もとからの環境保全の方法	59.0
27) 健康的な食事と食の安全	19.2	20) 成長期の健康問題	55.1
10) 情報の集めかた・発信	17.9	27) 健康的な食事と食の安全	55.1
31) 緊急時の対処（事故、病人）	16.7	31) 緊急時の対処（事故、病人）	55.1
23) 健康的な生活の計画と実践	15.4	32) 災害時の対応	53.8
6) 足もとからの環境保全の方法	14.1	23) 健康的な生活の計画と実践	52.6
20) 成長期の健康問題	14.1	18) 生活習慣病の予防	51.3
26) 新しい外遊びやスポーツの考案	12.8	25) 犯罪などに巻き込まれない	51.3
19) 感染症の予防	11.5	26) 新しい外遊びやスポーツの考案	51.3
18) 生活習慣病の予防	10.3	19) 感染症の予防	48.7
22) 事故・病気の影響	10.3	21) 事故予防	48.7
28) 薬の正しい使い方	10.3	17) 体の不思議さ	47.4
33) 保健医療サービスの利用	10.3	16) 体や心の老化	45.5
16) 体や心の老化	7.8	33) 保健医療サービスの利用	44.9
21) 事故予防	7.7	22) 事故・病気の影響	42.3
17) 体の不思議さ	6.4	28) 薬の正しい使い方	35.9

注) 表中の番号は資料1に対応。

n=78

- 1) 自然の大切さ
- 2) 水、空気、土壌などの汚染や、ごみ問題、ダイオキシン問題
- 3) 地球規模の環境問題 (オゾン層破壊、地球温暖化、環境ホルモンなど)
- 4) 大量消費社会と環境汚染との関連
- 5) 資源の有限性やリサイクルについて
- 6) 環境NGOの活動や足元からの環境保全の方法
- 7) 多民族間の文化や人間理解、人権尊重、相互依存関係について
- 8) 世界平和
- 9) 海外で起きている飢餓や貧困について
- 10) さまざまな情報の集め方、まとめ方、理解、自分から情報を発信する方法
- 11) 氾濫する情報を鵜のみにせず批判的に判断し、情報の真偽を見定める能力
- 12) 自分の体や生活についての情報 (体温、脈拍、自覚症状、身長や体重、睡眠時間など) を健康チェックや生活の見直しなどに活用する方法
- 13) 障害者の生活の擬似体験 (車椅子の試乗や目隠しでの生活など) や高齢者や障害者の視点からの地域づくり
- 14) 高齢者や障害者に対する基本的な援助、介助の方法
- 15) 高齢者とのふれあいや、障害者との交流
- 16) 老化に伴う体や心の変化についての理解
- 17) からだの不思議さや面白さ
- 18) 生活習慣病とその予防
- 19) さまざまな感染症とその予防
- 20) 成長期のいろいろな病気や半健康状態 (自律神経失調症、肥満、貧血など) とその予防
- 21) 家庭、地域、学校での事故の予防と対策
- 22) 事故や病気がもたらすさまざまな影響 (心理的、経済的影響や家族や友達に対する影響などを含む)
- 23) 健康に暮らすための遊び、食事、睡眠、勉強などの計画と実践
- 24) 喫煙防止や薬物乱用の防止について
- 25) さまざまな犯罪や違法行為に巻き込まれたり、誘い込まれないようにするための学習
- 26) 新しい外遊びやスポーツの考案など、体を動かすことに焦点を当てた学習や活動
- 27) 健康的な食事のとり方や、食の安全について
- 28) よく使う薬の働きや正しい使い方
- 29) 心身の成長や、性についての理解を高めるための学習
- 30) 心の健康に焦点を当てた学習
- 31) ケガ人や病人の発生など、緊急時の対応 (救急処置、助けを呼ぶ、電話をかける、説明をするなど) について、いろいろな場合を想定した学習、練習
- 32) さまざまな災害 (自然災害や火事など) が発生したときの対応
- 33) 健康を守る社会のしくみ (保健・医療・福祉) と保健医療サービス (保健室、病院、保健センター、各種相談機関など) の利用法
- 34) 「自分自身」を理解し、高めていくための活動